

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	17	実施計画番号	13
事務事業名	生活環境情報の提供		事業開始年度 平成13年
担当課名	まちづくり支援課		事務の種類(選択) 自治事務
根拠法令等	関連事務事業		
背景や経緯等	地球温暖化防止対策等について市広報等で周知する。		
事務事業の目的	自然エネルギーの有効活用等について、市広報等で情報提供を行い、CO ₂ 削減等、地球環境の保全に努める。		
実施状況	市ホームページに掲載		

【人件費の推移】

		24年度実績	25年度実績	26年度計画
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	1	1	1
	人件費(千円)	36	36	36
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

事業費合計(千円)	24年度実績	25年度実績	26年度計画
	0	0	0
うち一般財源			
うち国県支出金			
うち地方債			
うちその他			

【指標】

活動指標	活動指標名①	市ホームページ掲載				
	計算式等	単位	24年度実績	25年度実績	26年度計画	
	掲載回数	回	1	3	2	
	活動指標名②					
	計算式等	単位	24年度実績	25年度実績	26年度計画	
成果指標	成果指標名①	市ホームページ掲載				
	計算式等	単位	24年度	25年度	26年度	
	掲載回数	回	目標値	1	2	2
			実績値	1	3	
			達成度(%)	100%	150%	
	成果指標名②					
	計算式等	単位	24年度	25年度	26年度	
		目標値				
		実績値				
		達成度(%)				

十和田市事務事業評価シート

整理No	17
計画No	13

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	B	1	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: right;">2 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">市民に対して自然エネルギーの有効活用等について、市広報等で情報提供を行い、CO₂削減等の意識を向上させていくことが必要であるため妥当である。</td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	2 / 4	市民に対して自然エネルギーの有効活用等について、市広報等で情報提供を行い、CO ₂ 削減等の意識を向上させていくことが必要であるため妥当である。	
	存在意義の見直しの余地	2 / 4								
市民に対して自然エネルギーの有効活用等について、市広報等で情報提供を行い、CO ₂ 削減等の意識を向上させていくことが必要であるため妥当である。										
② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	B	1							
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1	3	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: right;">3 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">広報の掲載が不定期であるため、定期的な掲載及び掲載回数の増加など、広報係と協議しながら検討する。</td> </tr> </table>	成果向上の余地	3 / 6	広報の掲載が不定期であるため、定期的な掲載及び掲載回数の増加など、広報係と協議しながら検討する。	
	成果向上の余地	3 / 6								
	広報の掲載が不定期であるため、定期的な掲載及び掲載回数の増加など、広報係と協議しながら検討する。									
④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1							
⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1							
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: right;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">市民のCO₂削減等の意識を啓発する事業であるため、コスト削減にはなじまない。</td> </tr> </table>	コスト削減の余地	0 / 6	市民のCO ₂ 削減等の意識を啓発する事業であるため、コスト削減にはなじまない。	
	コスト削減の余地	0 / 6								
	市民のCO ₂ 削減等の意識を啓発する事業であるため、コスト削減にはなじまない。									
⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: right;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">市民のCO₂削減等の意識を啓発する事業であるため、受益者負担適正化の検討になじまない。</td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	0 / 4	市民のCO ₂ 削減等の意識を啓発する事業であるため、受益者負担適正化の検討になじまない。	
	受益者負担適正化の余地	0 / 4								
市民のCO ₂ 削減等の意識を啓発する事業であるため、受益者負担適正化の検討になじまない。										
⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2							
現在の適性					15 / 20	改善の余地	5 / 20			

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **15** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **5** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ⇒ **有効性を改善して継続**

方向性の理由
地球温暖化対策の啓発は大きな課題であり、市HP以外の媒体を検討していかなければならない。
今後の具体的な取組方策と狙う効果
新たな広報手段の再検討を行い、地球温暖化対策の啓発に努める。